

神戸大学附属図書館における 即時OA対応の検討状況と課題

学術情報基盤オープンフォーラム2024
困った！即時OA

2024年6月12日（水）

神戸大学附属図書館電子情報グループ
花崎 佳代子

内容

- 自己紹介
- 即時OA方針について
- 神戸大の取り組み
 - 現状・課題
 - 検討状況・残る課題
- 今後の対応のために

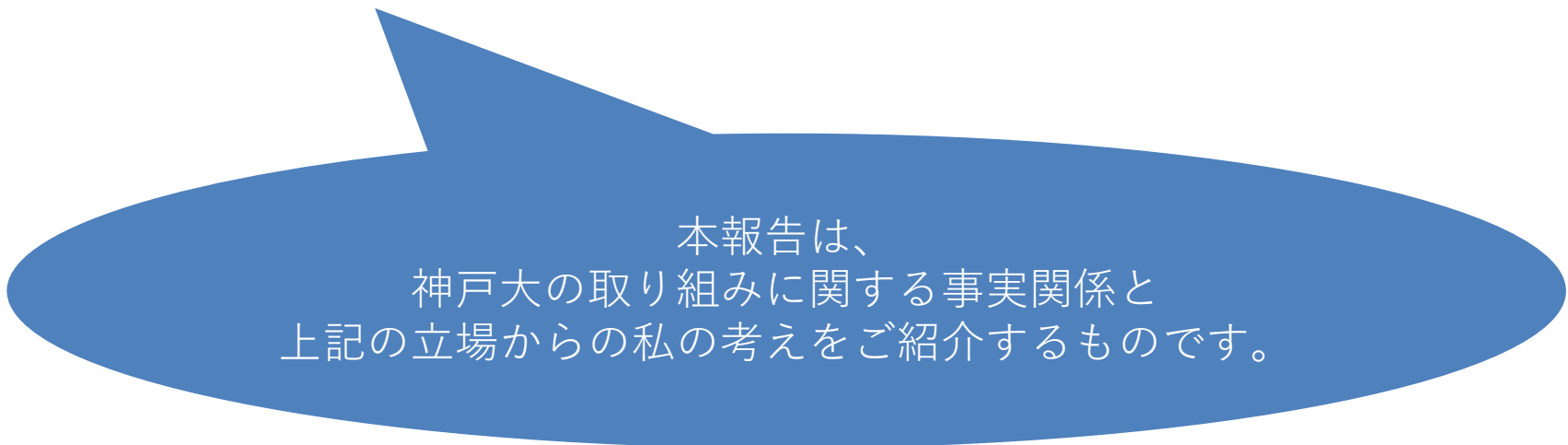
自己紹介

- 所属

- 2015.4-2023.6 電子図書館係（電子図書館担当）：リポジトリ担当係
- 2023.7- 情報システム担当：館内のOS関係の協議に一部参加

※ 2023.4- 国立大学図書館協会資料委員会OS小委員会TFメンバー
2024.2 英国の即時OA対応について視察

報告資料：<https://www.janul.jp/ja/news/20240417>



本報告は、
神戸大の取り組みに関する事実関係と
上記の立場からの私の考えをご紹介します。

即時OA方針について

即時OA方針

対象者	公的資金のうち 2025年度から新たに公募 を行う即時オープンアクセスの対象となる 競争的研究費を受給する者 （法人を含む）
対象となる競争的研究費	1 日本学術振興会 科学研究費助成事業 2 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 3 日本医療研究開発機構 戦略的創造研究推進事業 4 科学技術振興機構 創発的研究支援事業
登録対象	・ 査読付き学術論文（電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文（著者最終稿を含む）） ・ 根拠データ（掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる研究データ）
義務の内容	該当する競争的研究費による学術論文及び根拠データの 学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載 を義務づける （機関リポジトリ等の情報基盤への掲載は、学術論文及び根拠データの識別子も可とする。）

学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議令和6年2月16日決定）の実施にあたっての具体的方策

<https://www8.cao.go.jp/cstp/kenkyudx.html>

知りたいことの例

機関内の対応	ワークフロー整備のため必要な情報
対象の把握	・ 対象の論文やデータを誰がどう判断する？
論文のOA化	・ いつまでにOAにすればよい？ ・ どんな場合に例外が許容される？ ・ ゴールドOA分はどう扱う？
根拠データのOA化	・ いつまでにどこでどうOAにすればよい？ ・ どんな場合に例外が許容される？
モニタリング	・ モニタリングは誰がどのように行う？ ・ 評価や罰則はある？

とりあえずできること

機関内の対応	ワークフロー整備のため必要な情報
対象の把握	対象の論文やデータを誰がどう判断する？ 可能な範囲で 対象候補の論文情報を捕捉
論文のOA化	- いつまでにOAにすればよい？ - どんな場合に例外が許容される？ - ゴールドOA分はどう扱う？ 可能な範囲で多く & 早くOAに。 グリーンはエンバーゴ設定、 即時OA可はほぼゴールドのみ？
根拠データのOA化	- いつまでにどこでどうOAにすればよい？ - どんな場合に例外が許容される？ 登録申請があれば対応？
モニタリング	- モニタリングは誰がどのように行う？ - 評価や罰則はある？ まずは可能な範囲で 状況把握

神戸大の取り組み 現状・課題

Kernel

神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ

 神戸大学学術成果リポジトリ
KERNEL — Kobe University Repository —

入力補助 English

カテゴリ ランキング

🔍 神戸大学の研究者が生産した論文などの学術成果を収集し広く公開するデータベースです。

簡易検索 詳細検索

🔍 検索 🗑️ クリア

☐ 本文あり

著者所属 博士論文 資源タイプ

キャンパスライフ支援センター [4]

システム情報学研究所 [476]

バイオシグナル統合研究センター

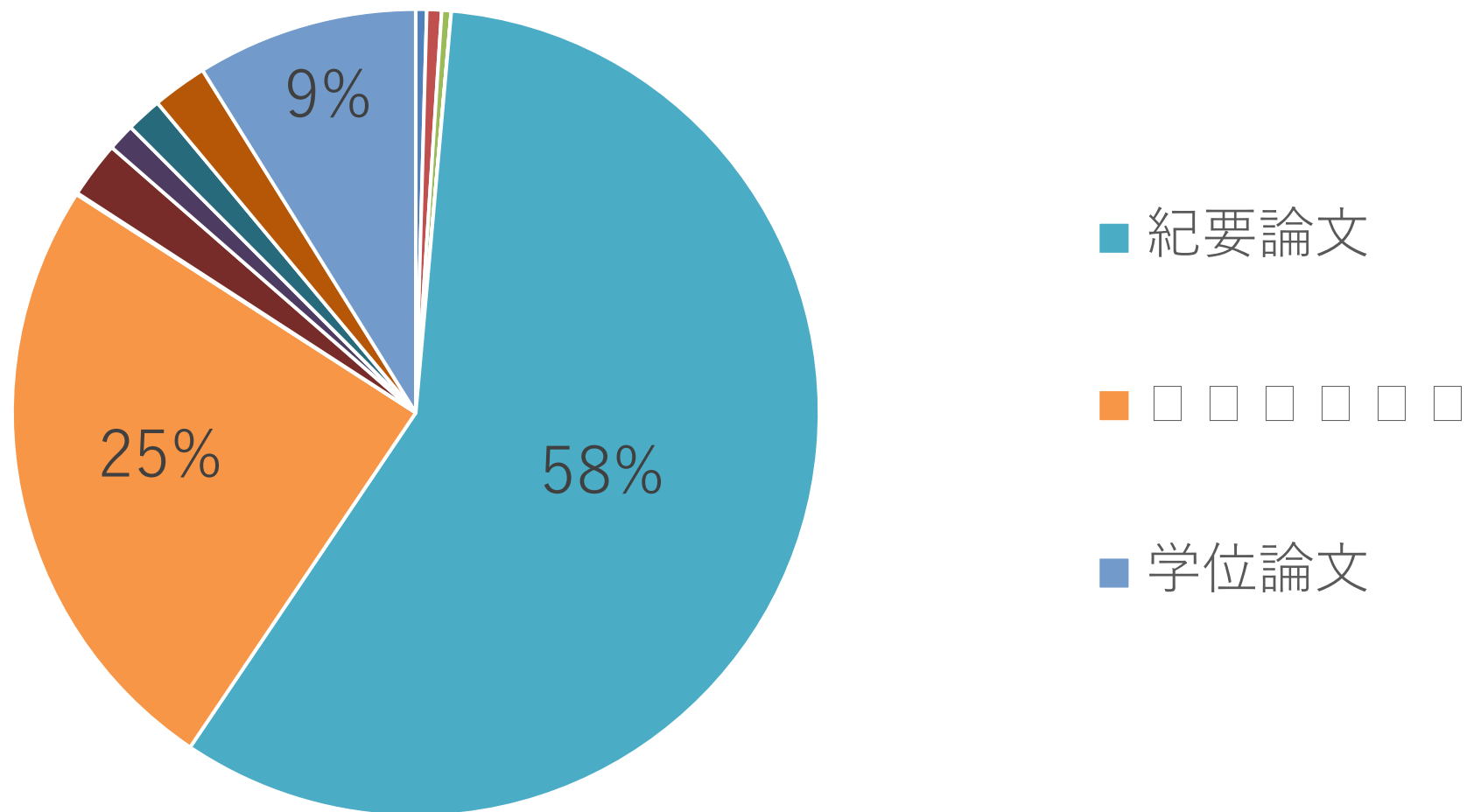
新着情報

2024年03月25日 『研究紀要：神戸大学附属中等 論集 = KUSS Journal of Education』第8巻を公開しました。

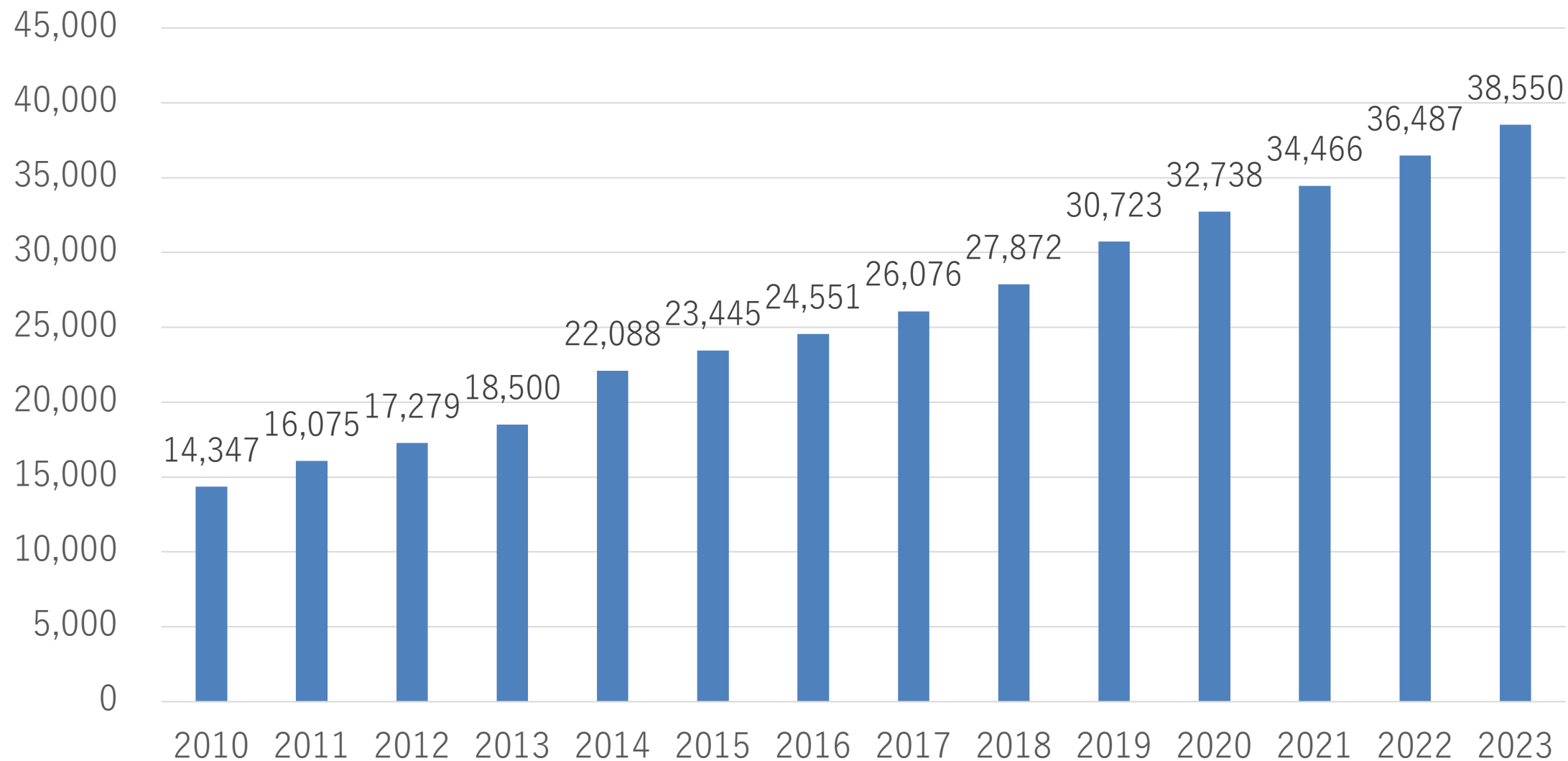
2024年03月21日 『国際文化学』第37号を公開しました。

- 2006.10 Kernel運用開始
- 2017.1 神戸大学オープンアクセス方針策定
- 2022.7 神戸大学 研究データ管理・公開ポリシー策定
- 2022.9 システム移行（E-Catsを使用）

Kernel公開コンテンツ



Kernel本文公開件数



学術論文登録のルート

2018.4～

①Web of Science

- 担当者1名
- 毎日
- 手順
 - 検索・確認
 - 登録依頼/CC BYなら登録後事後報告

②KUID (研究者情報システム)

- 担当者1名 + OA推進WG
- 年2回
- 手順
 - データ取得
 - 出版社ポリシー調査【WG】
 - 登録依頼/CC BYなら登録後事後報告

③教員からの依頼

- メール/フォームで受付

課題

2018.4～

①Web of Science

- 担当者1名
- 毎日
- 手順
 - 検索・確認
 - 登録依頼/CC BYなら登録後事後報告

業務量増加への対応

②KUID (研究者情報システム)

- 担当者1名 + OA推進WG
- 年2回
- 手順
 - データ取得
 - 出版社ポリシー調査【WG】
 - 登録依頼/CC BYなら登録後事後報告

情報取得の
タイムラグ

③教員からの依頼

- メール/フォームで受付

登録申請の効率化

神戸大の取り組み 検討状況・残る課題

検討体制

個別に研究推進部×図書館の情報交換も実施

- 全学

- 「研究データ管理・公開ポリシー実施検討WG」(～2024.5)
 - 情報担当理事、戦略企画室、URA、情報基盤センター、研究推進部、図書館
- 「オープンアクセス推進チーム」(2024.6～)
 - 理事4名、戦略企画室、URA、情報基盤センター、研究推進部、図書館

- 図書館内

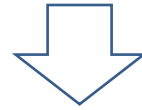
- 部長、情報管理課長、図書館URA、電子図書館担当、情報システム担当
- (転換契約に関しては+情報管理課長補佐、雑誌担当)

即時OA対応の検討状況

業務量増加への対応

情報取得の
タイムラグ

登録申請の効率化



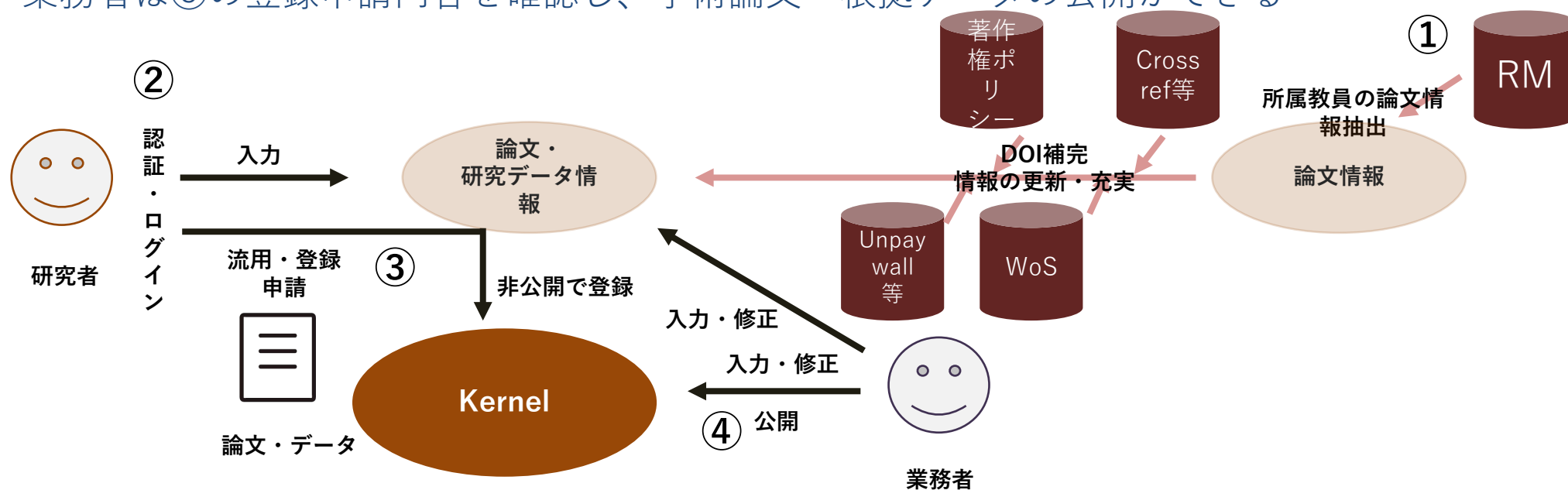
リポジトリの登録申請支援機能

= 教員による登録申請→職員による公開を支援する機能

リポジトリ登録申請支援機能

研究者は自身の、
業務者は全体の、
OA状況も一覧可能

- ① 外部情報源から論文情報を随時取得・蓄積
- ② 認証機能により研究者がログイン
- ③ 研究者は、①で取得した論文情報を参照・学術論文の原稿を添付し、学術論文の登録申請ができる。根拠データ情報を入力し、根拠データの登録申請もできる
- ④ 業務者は③の登録申請内容を確認し、学術論文・根拠データの公開ができる



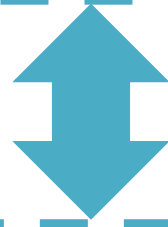
残る課題

- 即時OAの詳細が判明すれば都度対応
- 登録申請支援機能を導入できればその後の影響を評価
(登録数、効率化の度合いなど)
⇒ 今後の対応を検討
- 学内広報
- 即時OA対応のための継続的な財源確保

今後の対応のために

現状（困った）

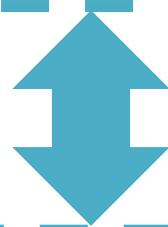
即時OAの要件について
わからないことが多い



学内で対策をとりたくてもとりづらい

こうなるとうれしい

関係者での協議の上、
即時OA要件の明確化



関係者での役割分担の上、
具体的な対策を進める

研究助成機関、NII、
研究機関（図書館や研
究推進部門）、研究者、
出版社等

即時OA要件の明確化

- 対象の論文やデータを誰がどう判断する？
- 論文はいつまでにOAにすればよい？
- どんな場合に例外が許容される？
- ゴールドOA分はどう扱う？
- 根拠データはいつまでにどこでどうOAにすればよい？
- モニタリングは誰がどのように行う？
- 評価や罰則はある？

英国の事例

- 出版日を起点に、著者最終稿の公開は1か月以内の遅延は許容（UKRI）
- OA方針の非遵守が繰り返し/著しく発生する場合、研究機関と協議・支援（UKRI）

具体的な対策

- 制度、財源等の整備
- インフラ・プラットフォーム整備
- 情報収集・提供

英国の事例

権利保持戦略の導入（UKRI、研究機関）

Journal Checker Tool：各助成機関×研究機関×雑誌について、OA方針を遵守できるOAオプションを調べることができるツール（UKRIで使用、cOAlition Sによる運営）

Publications Router：ジャーナルからCRISや機関リポジトリに、所属研究者の論文のメタデータや著者最終稿を提供する仲介システム（Jisc）

機関ごとの権利保持戦略導入のための情報交換のサポート（Jisc）

リポジトリ登録申請や状況把握のためのワークフロー・システム整備（研究機関）